

こども相談室

「小児科と耳鼻科」 受診科に迷ったら



千葉県小児科医会 沼澤 環 医師

こども急病電話相談
受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00~翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939

小さな子供は抵抗力が弱く、咳、鼻水、発熱などの症状が頻繁におこります。嘔吐や下痢は小児科、耳痛は耳鼻科など、どちらにかかるとすべきか明確ならば困りませんが、咳、鼻水、発熱の際、悩むことが少なくありません。

小児科は聴診器を使って呼吸状態の異常を診断したり、子どもの全身状態の変化を把握するのが得意です。耳鼻科は、耳、鼻、咽喉の異常を診断し、鼻水吸引、鼓膜切開など適切な処置をするのが得意です。

軽症ならばどちらにかかっても良いのですが、問題は、症状が重い場合や長引く場合です。今回は子どもに多い咳、鼻水、発熱の際、どちらにかかったら良いのか、私見を述べたいと思います。

▶咳が主症状の場合

感冒によることが多いですが、症状が重い場合や長引く場合は、肺炎、喘息、気道異物などを見逃さないために、まずは小児科受診をお勧めします。

咳の原因としては、耳鼻科が取り扱う疾患である副鼻腔炎でも、鼻水が咽喉にまわってしつこい咳が続きますが、咳、喘鳴が異物によるのか、他の原因なのか、耳鼻科で判断するのは困難です。まずは小児科を受診し、必要ならば耳鼻科受診を勧めてくれるでしょう。(気道異物の診断ができましたら、手術は耳鼻科が専門です。)

▶鼻水が主症状の場合

治りが悪い場合は、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎など鑑別を要します。鼻水分泌を止めるのか、排出を促すのかは、間逆の対応です。忘れてはならないのが中耳炎で、ほとんどが鼻や咽喉の炎症が原因となります。

しかし、鼻水貯留や耳痛に気づかない場合

も多く、鼻や喉元が苦しう、機嫌が悪いなど、子どもの変化に注意することが重要です。

鼻水が主症状の場合は、中耳炎も含め、耳鼻科受診をお勧めします。小児科でも急性中耳炎の診断、抗生剤治療までは可能なことが多いのですが、確実ではなく、滲出性中耳炎の診断、対応は困難です。滲出性中耳炎では聴力が低下し、言語発達に影響する上、急性中耳炎が再発しやすいのです。

耳痛がなければ治ったと勘違いするお母さんも少なからずいらっしゃいます。小児科で中耳炎と診断、治療を受けた場合でも、必ず耳鼻科で治癒確認を受けましょう。

▶発熱の場合

2~3日で解熱する、食欲があり水分摂取できる、眠れるなど、全身状態が良ければ、それほど心配ありません。水分が摂れない、あまり動かない、尿が少ない、4日以上発熱が続く場合は、小児科受診をお勧めします。理由は、呼吸器疾患以外の原因や全身状態の把握、脱水の評価と対応などは、小児科が専門だからです。(状態の悪い小さなお子さんの採血や点滴は、小児科医でなければ困難です。)

一方、発熱が長引く原因が中耳炎によることもあります。したがって、お子さんが今まで中耳炎を繰り返している場合には、まず耳鼻科を受診してください。同時にお願いしたいのは、アデノウイルスや他の感染症に罹患していないか等、確認するために、小児科も必ず受診することをお勧めします。

※ どれが主症状かわからない場合は、両方受診しましょう。